

運営・研究部会
2019年度活動報告
(オープンラボ利用状況含む)

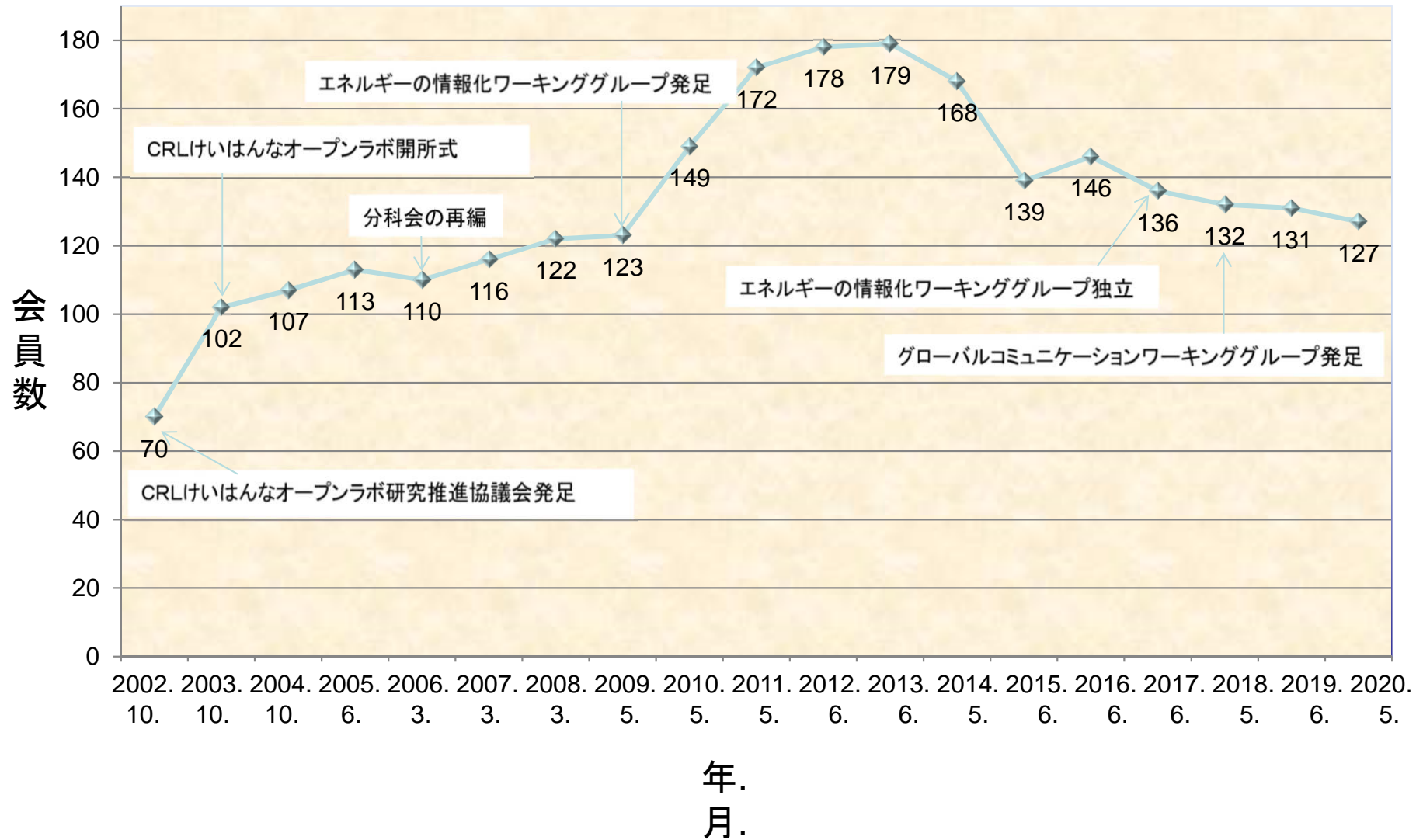
2020年6月29日

総会資料

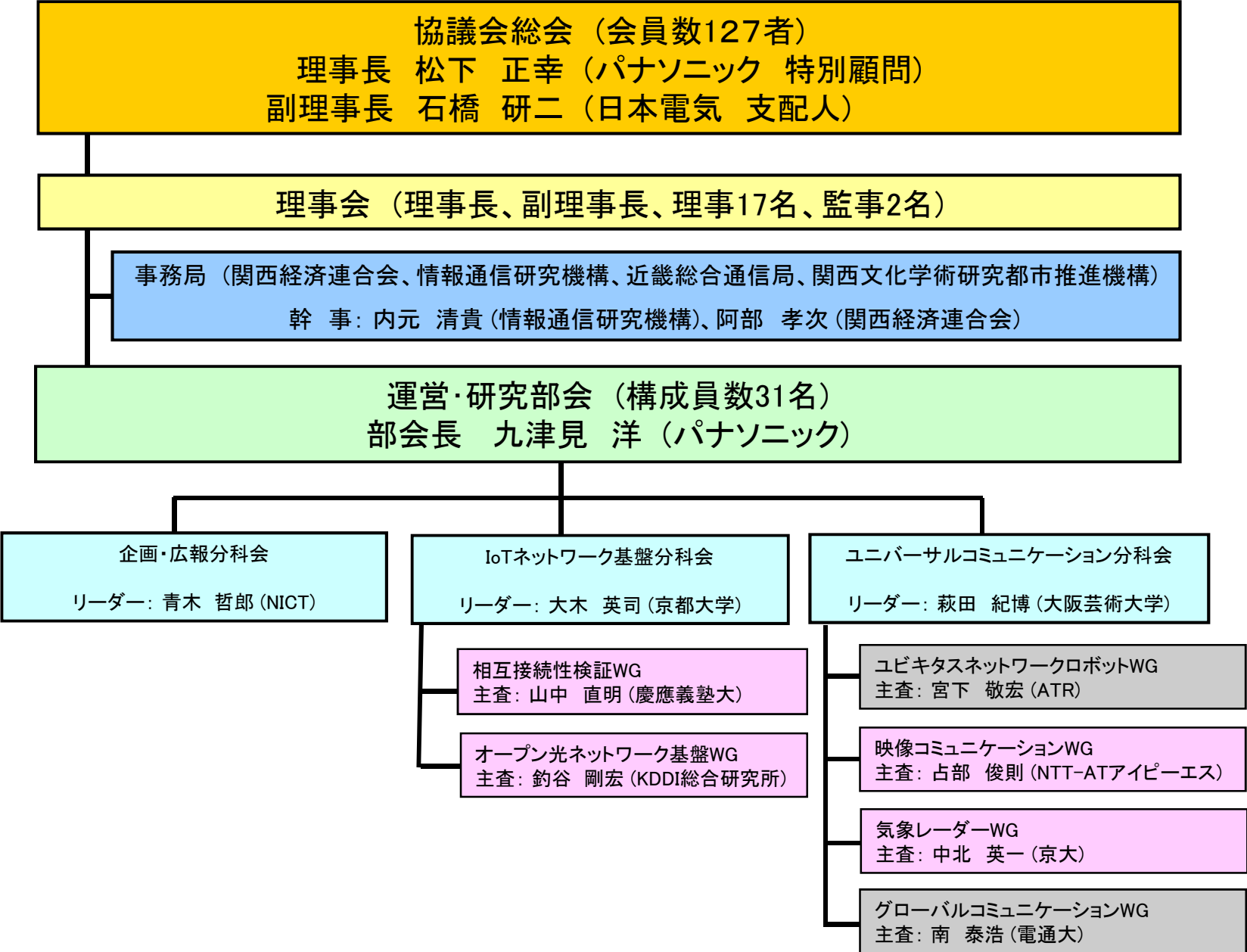
2019年度活動トピックス

- 第18回総会を開催し、松下理事長の挨拶、活動報告と活動計画、予算、決算の決議等の後、安藤広志氏(NICT)より「脳の多感覚情報認知メカニズムの解明に向けて」と題し、講演会を実施(6月12日、けいはんなプラザ)。
- けいはんな情報通信フェア2019(10月31-11月2日、けいはんなプラザ)において、ブース展示をおこない、研究活動の紹介とアピールを実施。
- けいはんな情報通信オープンラボシンポジウム「多言語音声翻訳技術の新展開に向けて」を開催し(2020年1月28日、ホテル阪急レスパイア大阪)、研究成果についての講演、展示とともに活発な意見交換をおこなった。

会員数の推移



けいはんな情報通信オープンラボ研究推進協議会体制図



分科会参加状況（2020年3月末現在）

IoTネットワーク基盤分科会	
分科会（のべ人数）	41
相互接続性検証WG	35
オープン光ネットワーク基盤WG	6

ユニバーサルコミュニケーション分科会	
分科会（のべ人数）	41
ユビキタスネットワークロボットWG	12
映像コミュニケーションWG	4
気象レーダーWG	5
グローバルコミュニケーションWG	20

けいはんな情報通信オープンラボシンポジウム開催結果

○日時：2020年1月28日（火） 13:30～17:30
 ○場所：ホテル阪急レスパイア大阪（大阪市北区）
 ○来場者数：59名（交流会36名、アンケート回収数27）
 ○主催：けいはんな情報通信オープンラボ研究推進協議会
 ○共催：（公社）関西経済連合会、（国研）情報通信研究機構、総務省近畿総合通信局、（公財）関西文化学術研究都市推進機構
 ○概要：多言語音声翻訳技術の東京オリンピック・パラリンピックでの実装をターゲットとしたグローバルコミュニケーション計画が2019年度で一区切りとなることから、今回のシンポジウムでは、グローバルコミュニケーション計画のこれまでの成果と大阪・関西万博での実装も視野に入れた次期の開発計画について、産官の第一線の方々よりご講演をいただきました。出席者からは、タイムリーな企画であった、多言語対応技術の普及を感じさせるなどの感想をいただきました。

- プログラム 「多言語音声翻訳技術の新展開に向けて」
- ◆開会挨拶 九津見 洋氏（当協議会理事、運営・研究部会長）
- ◆「次期グローバルコミュニケーション計画に向けて
 ～多言語翻訳技術のさらなる飛躍～」
 影井 敬義氏（総務省国際戦略局技術政策課研究推進室課長補佐）
- ◆「AI翻訳立国」
 隅田 英一郎氏（国立研究開発法人情報通信研究機構
 先進的音声翻訳研究開発推進センター副センター長・NICTフェロー）
- ◆「世界とポケットークしよう」
 川竹 一氏（ソースネクスト株式会社技術戦略室執行役員）
- ◆「コニカミノルタのハイブリッド通訳システムとは」
 川崎 健氏（コニカミノルタ株式会社
 セールス&マーケティングマネージャー）
- ◆「やさしい日本語のインパクト」
 吉開 章氏（やさしい日本語ツーリズム研究会代表）
- ◆閉会挨拶 林 信秀氏（総務省近畿総合通信局 情報通信部長）
- ◆交流会



九津見 洋氏



影井 敬義氏



隅田 英一郎氏



川竹 一氏



川崎 健氏



吉開 章氏



林 信秀氏



講演会場



講演会場



講演会場



講演会場



交流会

2020年度活動方針(案)

企画・広報分科会の開催後、緊急事態宣言が解除され、ひとまず感染症の収束が見えてきたが、ICT活用によるコロナ後の社会のあり方が、今後、新たな重要テーマとなるはずである。既存のWG活動や、シンポジウム、セミナーなどの活動に加え、以下の点について企画・広報分科会等で新たに検討を進める。

- (1) 新型コロナウイルス感染症が蔓延する可能性を前提とした新しい生活様式、また、予想される経済の収縮に対応する情報通信技術の役割を検討し、そのための研究開発に向けた産学官連携を推進する。
- (2) 万博など関西の大イベントや関西の抱える課題への対応を検討し、けいはんな、関西がポテンシャルを有する分野を生かした研究開発課題を掘り起こし、新たな研究活動の起爆剤とする。
- (3) グローバルコミュニケーション計画2025の立ち上げに合わせて、多言語翻訳技術の実用化・実証へ向けた新たな活動をおこなう。
- (4) オンライン形式で、シンポジウム、セミナー等を開催し、協議会活動の広報や産学官連携関係者との交流・情報交換をおこなう。オンラインでの情報拡充なども検討する。

2019年度オープンラボ施設利用状況

課題名	研究機関	人数	研究概要
自動車運転技能評価技術の開発と運転行動の分析による交通事故防止方策の提案	株式会社 ATR- Sensetech	4	運転行動自動評価システムについて、評価内容の高度化、地点検出の高度化・安定化および映像情報との複合化の技術を開発する。これをもとに運転行動の長時間データの集積をおこない、他の生理情報との複合的分析により行動評価の個人化を進める。
二面コーナーリフレクタアレイ(パリティミラー)の製造方法の確立および応用空中映像システムの開発	株式会社パリティ・イノベーションズ (NICT発ベンチャー)	5	ナノ加工、ナノインプリント等により製造した光学素子の評価を実施する。また、電子回路等の設計、試作をおこない、新しいメディアあるいはユーザインターフェースとしての空中映像応用システムを開発する。
クラウド環境下における各種資源の最適な配備選択方式の研究開発	株式会社アットフィード	2	オンプレミス環境とクラウド環境で計算資源を遷移するための技術開発と、クラウド間で計算資源を遷移するための技術開発をおこなう。
ウェアラブル香り制御装置の改良及び性能評価	株式会社アロマジョイン (NICT発ベンチャー)	7	ウェアラブル端末と連動可能な超小型の香り制御装置を開発し、仮想現実コンテンツに嗅覚といった情緒や長期記憶にかかわる香り情報を提供することで新しい付加価値を創出する。
IoTを活用した安全管理支援システムの研究開発	株式会社プロキダイ	3	ストレスフリーな着け心地で安定したバイタルデータを測定できるマルチ生体電極技術をベースに、心拍数、呼吸、体温等をセンシングできるセンサーと遠隔で監視できるシステムを構築する。
5	5	22	合計